

障害者生活支援シンポジウム

「デジタル化・キャッシュレス時代に合わせた軽度知的障害者への支援」

社会福祉法人 明光会 障害者生活支援シンポジウム実行委員会

〒421-1211 静岡県静岡市葵区慈悲尾 180 番地

助成事業の概要

・近年、スマートフォンの普及やマイナンバーカードの利用推進

・〇〇pay の拡がりなどデジタル化

・キャッシュレス化が進んできて、また政府においてもデジタル化の推進に担当相を新設し今より一層力を入れようとしています。

企業においては「雇用契約書」「給与明細」などが電子データで提供されたり、届け出がメール使用となったりオンラインでの在宅ワークなどもこの一環なのかと思えます。

このような変化は企業就労している軽度知的障害者にも少なからず影響を及ぼしているものと思います。障害が軽度であっても環境の変化に順応することが障害特性上なかなか難しいのではないのでしょうか。共生社会を目指しているといっても今のデジタル化・キャッシュレス化の動きがこのような人たちのことも考えているとは思えないところがあります。相談支援を行なう立場からは今後も彼らに対する生活支援を行なう必要があると思いますが今までと同じような支援方法ではうまくいかないのではないかと考えデジタル化・キャッシュレス化の現状、日常生活でどの程度利用しているのか、利用上の問題点や不安な点を明らかにしながら支援者（彼らを取りまく人たち）がどのような方法で支援をしていくのが良いのかその手掛かりを得るとともに多くの支援者が支援の中にデジタル化・キャッシュレス化への対応を入れ込むことができるようにする第一歩としたいと考えます。

事業の成果

令和4年11月25日、静岡市呉服町の静岡県障害者働く幸せ創出センター（5 風来館 4F）にて「障害者生活支援シンポジウム」を開催しました。当日はコロナ感染症の第八波に入ったとの報道もあり ZOOM との併用開催としました。日本社会福祉弘済会から理事・事務局長の近石裕二様にお越しいただきご挨拶をいただきました。今回はテーマとして「デジタル化・キャッシュレス時代に合わせた軽度知的障害者への支援」を掲げ3部構成で行いました。第1部の講演ではしずおかフィナンシャルグループ 静岡銀行経営企画部 DX 戦略推進グループの原田課長が「デジタル化・キャッシュレス化はどこまで進むのか」と題してデジタル化・キャッシュレス化とはどういうものから始まり今後どう進展していくのか、現時点での障害者への支援事例など多岐にわたってお話しいただきました。福祉関係者にとっては金融機関のかたからお話を聞く機会はほとんどなく知識も乏しいのですがわかりやすく説明をいただいたと出席者から好評でした。

続く第2部では障害者就業・生活支援センターさつきの訪問先企業で働く軽度知的障害者に直接アンケート調査を行った結果を報告しました。スマホは9割利用しているがQRコード決済の利用はほぼ半数であったりクレジットカードはほとんど利用がないなどの現状がわかりました。

このあとのディスカッションではしずおかフィナンシャルグループ内の特例子会社であるしずぎんハートフルの東島社長、当事者（しずぎんハ-

トフル社員) 当事者団体である静岡市静岡育成会の新井顧問、講師の原田課長にも加わっていただき明光会相談部門から相談員 2 名も入って意見交換をおこないました。具体的なもの(現金)が介在しない QR コード決済は当事者にとってはわかりにくいことからくる不安や親と一緒にすることで安心できるといった意見やこれからデジタル化・キャッシュレス化が進むので家族を含む支援者も学んでいかないといけないなどの今後につながる意見も聞かれました。このような話を聞いたり考えたりする機会は今までほとんどなかったこともあってとても参考になったという感想が多くの出席者から聞かれました。

また原田課長や東島社長からは福祉関係者と話をする機会は今までほとんどなかったのもとても勉強になったと感想を述べておられました。

成果の広報・公表

シンポジウムの模様は、当日静岡新聞の記者が取材に来てくれました。11 月 30 日付けの静岡新聞朝刊(静岡地域版)に掲載されましたので広く市民の目に触れたものと思います。

またサポートセンターコンパス北斗と障害者就業・生活支援センターさつきのホームページに掲載する予定であります。定期的に発行している明光会の広報誌にも掲載することを考えております。また講演の内容やディスカッションの様子をまとめた「シンポジウム報告書」(冊子版)と ZOOM 映像を DVD に録画し講師やパネリストに配布することを考えています。

しずおかフィナンシャルグループ内の静岡銀行や特例子会社であるしずぎんハートフルでもこのような福祉関係者との企画は初めてであり社内でも広報してくれるものと思われま。

市内の就労移行支援事業所、権利擁護センター、静岡市静岡手をつなぐ育成会にも働きかけを行い

生活支援セミナーなどの教材として活用していただくことを検討しています。

今後の展開

デジタル化・キャッシュレス化は今後も進展してくるので軽度知的障害者への支援はかせないことは今回のシンポジウムで明らかになりました。そこでこれからの展開として企業就労者にアンケート調査を継続的に行い、不安な点や利用していない理由をもっと多く収集することをしていきたいと思ひます。この結果を分析しどのような支援が考えられるか今回の出席者を中心に検討していきたいと考えています。またこの結果から検討された支援方法を実践し将来支援教材として昇華できれば良いと考えています。

特に QR コード決済については軽度知的障害者の障害特性を考えると現金での決済よりも有利な点があることも判明してきましたので静岡市内の商店街の一部で「障害者に優しいキャッシュレス商店街」といった取り組みを実験的に行うことや社会福祉協議会が行っている権利擁護事業に組み入れてもらい金銭管理方法のひとつとして検討してもらおうなどの取り組みを始めていきたいと思ひます。